

平成23年行政事業レビューシート

(警 察 庁)

事業名	幼児・児童の自転車用ヘルメット着用等状況調査	担当部局庁	交通局	作成責任者				
事業開始・終了(予定)年度	平成19年度～平成22年度	担当課室	交通企画課	交通企画課長 入谷 誠				
会計区分	一般会計	施策名	4 安全かつ快適な交通の確保					
根拠法令 (具体的な条項も記載)	-	関係する計画、通知等	-					
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	平成30年を目途に交通事故死者数を2,500人以下とするという政府目標を達成するため、幼児・児童のヘルメット着用の促進を図る。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	全国において、幼児・児童の保護者等を対象にアンケート調査を実施し、自転車用ヘルメット着用状況及び保護者・児童の意識等を調査し、回収した調査票を基に専門的な分析を行い、幼児・児童のヘルメット着用の促進を図る。							
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 業務委託等 ☐ 補助 ☐ 貸付 ☐ その他							
予算額・執行額 (単位:百万円)		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求		
	予算 の 状 況	当初予算	8	6	2	-	-	
		補正予算	0	0	0	-		
		繰越し等	0	0	0	-		
		計	8	6	2	-	-	
	執行額		3	2	1			
	執行率(%)		38%	33%	50%			
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	成果指標			単位	20年度	21年度	22年度	目標値 (年度)
	(成果目標) 幼児・児童の自転車用ヘルメットの着用実態の把握		成果実績	件	1	1	1	-
	(成果指標) 着用状況の調査とりまとめ回数		達成度	%	100%	100%	100%	
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
	調査実施箇所数		活動実績 (当初見込み)	箇所	47	47	6 (6)	- (-)
単位当たり コスト	1,314千円 / 年		算出根拠	年間執行額				
平成23・24年度予算内訳	費 目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由				
	計							

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・状況・予算の	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	○	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、使途、費目・	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	-	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	○	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	1 支出先・使途の把握水準 本事業については、警察庁が直接契約していることから、支出先を把握している。 2 見直しの余地 本事業は、今後の幼児・児童のヘルメットの着用促進、義務化等に向けた必要不可欠な調査研究であった。本実施にあたっては、一般競争入札で行っており、競争性の高い契約の実施に努めた。		
予算監視・効率化チームの所見			
		1 支出先・使途等の実態把握の状況に関する所見 おおむね十分であると認められる。 2 改善策の内容及び横断的見直しの状況に関する所見 交通安全対策は、我が国の交通環境における安全性及び効率性を高めるためにも一層推進していかなければならない分野であることから、引き続き予算の適正な執行に努められたい。 3 レビューシートのわかりやすさに関する所見 おおむねわかりやすい。	
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
特になし(事業の終了)			
補記 (過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			
特になし			

資金の流れ
(資金の受け
取り先が何を
行っているか
について補足
する)(単
位:百万円)

警察庁
1百万円

調査研究事業を委託



【一般競争入札】

A.(株)流通システム研究センター
1百万円

受託した調査研究事業を実施

費目・使途 (「資金の流れ」 においてブロッ クごとに最大の 金額が支出され ている者につい て記載する。費 目と使途の双方 で実情が分かる ように記載)	A.(株)流通システム研究センター			E.		
	費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
	人件費	研究者及び研究補助員	1			
	計		1	計		0
	B.			F.		
	費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
	計		0	計		0
	C.			G.		
	費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
	計		0	計		0
	D.			H.		
	費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
	計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)流通システム研究センター	調査研究業務委託	1	5	
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

自転車乗車用ヘルメットの効果的な着用促進策の普及

平成19・20年度 ヘルメット着用等状況調査

- 着用率は、 幼児：54.6%（←28.1%/19年度） 児童：22.1%（←18.2%/19年度）
都市規模別では、 幼児は、大都市ほど着用率高（61.2%/50万都市、35.5%/3万都市） 児童は、逆に大都市ほど着用率低（14.4、37.7）
都道府県別の着用率は、着用率高＝京都、東京、神奈川（この3都府県固定） 着用率低＝新潟、山梨、香川（調査年によりバラツキ）
その他の特徴としては、
・非着用理由は、 「短い距離しか乗らない」、「面倒」、「周りがかぶっていない」
・着用理由は、 幼児（保護者）・児童ともに「自分で考えて必要だと思ったから」が最多。「事故報道を見聞きしたから」は大都市で多い（30.2%/50万都市、15.4%/3万都市）ほかは、都市規模による違いなし。
・子ども同乗経験は、 大都市は、小都市の2倍（50.6%/50万都市、25.5%/3万都市）
・努力義務化認知は、 都市規模による違い大（62.5%/50万都市、49.3%/3万都市）

- ヘルメット着用に関する設問を細分化
- 詳細分析にたえうるサンプル数を確保
- 調査対象地域を計6都府県に限定（着用率高低上計6県）
- 幼児2人同乗用自転車の利用状況等を調査

左記調査結果を踏まえ、着用率の高い地域を特定。
特定された地域内で、自転車での幼児の送迎が特に多く見られる幼稚園・保育所の協力を得て、保護者への対面調査実施。
ヘルメット着用等の安全対策に関する意識をヒアリング。

都道府県別・都市規模別の着用率・着用理由等の詳細分析
都道府県における施策（広報啓発、交通安全教育、各種助成制度等）と着用率等の関係調査
幼児2人同乗用自転車の利用状況及び同乗幼児のヘルメット着用状況の把握

効果的な着用促進策の普及